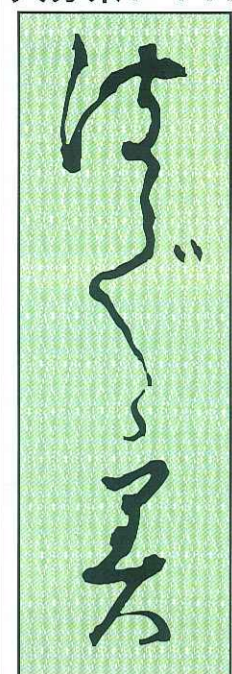


大分県PTA



発行所
大分市大字下郡496-38
大分県教育会館2F
大分県PTA連合会
☎(097)556-9055
責任者 冨永大輔
印刷所 大分市下郡3154の22
九州出版印刷株式会社



県知事賞に『夢つるや』

佐伯市立鶴谷中学校育友会



PTA 広報紙コンクール



晴れやかな笑顔で 冨永県PTA連会長と鶴谷中育友会代表

4月15日、第38回大分県PTA広報紙コンクールの表彰式が大分県教育会館で行われた。
県内の小・中学校PTA・育友会から、131点の応募があり、48点が受賞した。

表彰式では来賓・受賞校の代表者約80名が出席する中、冨永大輔県PTA連会長が「ベストな形で発行している広報紙に、コンクールとして優秀をつけるのは忍びない。しかし、たくさんの方に見やすい納得いく新聞を見ていただき、多くの情報を仕入れ、新たな挑戦をする機会にしてほしい。また、活動の結果が評価されるのは良いことで、受賞されるみなさんの努力が感じられた。広報部の成果は形に残る。それを紐解いていくと学校の歴史を辿り込んでいくと学校の存在となる。敬意を払いたい。

入賞作品の縮刷版が出来上がっている。いろいろな情報を持ち帰り、また明日からのPTA活動に役立てていただきたい。本日はおめでとうございませうとあいさつした。
続いて、野中信孝県教育長(代理大城久武県教育庁教育次長)が「広報紙は、学校での子どもの様子やPTA活動を保護者や地域の方に伝える地域総ぐるみで子どもを育てる意識を醸成する役割がある。スマートフォンの利用実態など児童生徒の生活状況や保護者の思いを紙面で伝え、それを踏まえたPTA活動を企画し実施することが重要となる。保護者と保護者をつなぐ、子どもをみんなで支え合うことが大切である。受賞を契機に更に魅力ある新聞づくりの取組をお願いしたい」と呼び掛け、祝辞を述べた。

会場に向けエール

表彰の後、帆足三郎審査委員長が入賞校を中心に講話。「初めての人が多くいるにもかかわらず、よくここまで作って出してきた。感心している。拍手を送りたい。一生懸命に取り組んでいる姿が目に見える。何回もやり直しては、一つの紙面として完成させていく。この達成感は何ものにもかえがたい。ぜひ、次の方たちにもきちんとバトンタッチして、今後もコンクールにチャレンジしてほしい」と今後の活躍を期待し、会場に向けてエールを送った。
続いて、よりよい紙面づくりのための編集作業について次のようにアドバイスをした。
▼文章は短く。改行を必ず作り、読みやすくする。
▼数字は洋数字に統一する。
▼見出しの文字数は8〜11字に収める。短くする発想を。
▼スッキリと見やすいレイアウトを心がける。記事や見出しの縦と横の組み合わせを工夫し、変化をつける。

審査員

- 帆足 三郎(委員長) 大分合同新聞文化センター元顧問
阿南 典久 大分県教育庁社会教育課参事
岩尾 淳一 大分県PTA連合会「はくく美」顧問
冨永 大輔 大分県PTA連合会会長(敬称略)

審査方法・基準

4人の審査員が1人10点の持ち点で1次審査。集計をもとに審査員の協議による2次審査で各賞を決定する。

- 〈基準〉
①読みやすく、わかりやすく、すっきり
②年間のシリーズ物、企画物があるか
③広報紙の特色(運動会等の扱い)
④写真のバリエーション、トリミング
⑤地域の特色が出ているか
⑥レイアウト、見出し、カットの整理力
⑦誤字・脱字がないか
尚、入賞紙のうち10枚が「全国小・中学校広報紙コンクール」に出品される。

お知らせ

☆第38回大分県PTA広報紙コンクール優秀広報紙縮刷版
1冊800円で縮刷版を販売します。ご希望の方は、県PTA事務局までお申し込み下さい。
県内の各小・中・特別支援学校には都市PTA連を通して1冊贈呈します。
大分県PTA連合会事務局
☎(097)556-9055



▲毎日に若芽が成長する。これからは若葉が青葉になり、夏にかけて濃緑色になっていく。野山も同じように色彩を変えて時空は移ろう。さて4月に入学進級した児童生徒のみならず心の色彩はいかがですか。奮闘努力していますか。今年1月に募集した第7回全国夢一文字コンテストのベスト5は、2443点中、「進・71点友・65、笑・62、夢・59、努・59」でした。今の今、只今、あなたは、どんな夢(目標)を持っていきますか。夢を持って生きる、生きることであると私は思うのですが。▲「花は根に鳥は古巣に帰れども 人は若き日に帰ることなし」花は咲いて後、枯れて根に戻る、鳥も巣に戻るを知っている。若い時や今の時を無駄にするなどという教え。「もろもろの願いありとも手を束ね 遊びていつ成就せん」どんな夢や願望を抱いていても、手をこまねいては何も成就はしない。「世の中に時かすに生えしためしなし 蒔きてぞついに運や開けん」この世に種を蒔かずには生えたいのはひとつもない。播種つまり志や準備あればこそ開運の時がある。「その道に入らんとする心こそ わが身ながらの師匠なりけれ」何ごとともやろうという意気こそが最高最良の師匠なのだ。その師匠は、あなた自身の心の中にいるのです。▲おわりに夢一文字コンテスト5で綴った私からの激励文を「何ごとにも進取の気を持ち、良き学友を得て、笑顔で絶やさず、自分で描く夢に向かって日々努力しよう」ゆめゆめ、夢を運音さんにすがり安易さは捨てましょう。

第38回 PTA広報紙コンクール入賞校

- 県知事賞 「夢つるや」 鶴谷中(佐伯市)
県PTA連合会長賞 「もりおか」 森岡小(大分市)
「とまち台」 渡町台小(佐伯市)
「よしの」 吉野中(大分市)
「東小ふれあい」 鶴岡小(佐伯市)
野津原東部小(大分市)
「会報みくま」 三隈中(日田市)
県議会議長賞 「津留小タイムズ」 津留小(大分市)
県教育長賞 「上野ヶ丘」 上野ヶ丘中(大分市)
「津小くすの木」 津久見小(津久見市)
県小学校長会長賞 「たかせ」 高瀬小(日田市)
県中学校長会長賞 「あおがき」 大分大学教育福祉科学部附属中(大分市)
大分合同新聞社賞 「広報つるおか」
OBS賞 「ひこだけ」 第一中(津久見市)
TOSテレビ大分賞 「まいづる」 舞鶴小(大分市)
OAB賞 「きずな PRESS」 中部中(別府市)
大分ケーブルテレコム賞 「梅の里新聞」 吉野小(大分市)

- 優良賞(順不同)
西朝日 中野 原川中 明野西小 横瀬西小 小中小小
部日中 植田東中 野津原中 三野東小 寒田小 登部宜限岡田
朝中 坂ノ市中 野津原小 三野東小 大在 南成日光有
武蔵 野津原中 長濱小 戸次小 賀来小 川南成日光有
南大 長濱小 豊府小 植田小 東植田小 福良ヶ丘小
戸次 豊府小

(文中の歌は河出夢新書より)

家庭教育は すべての教育の出発点

三行詩コンクール 大分県最優秀作品

大分県PTA連合会は、平成26年度「三行詩コンクール」の審査を行い、応募総数141点の中から、部門ごとの最優秀・優秀作品を選定し発表。富永大輔県P連会長が、受賞者の学校を訪れ表彰を行い祝福した。

最優秀

【小学校の部】



大分市立金池小学校
6年 高橋優花

いってらっしゃい
見えなくなるまで見送る母
はずかしいけど ありがたい



宇佐市立和間小学校
4年 森愛斗

毎日の出来事を話して聞かせて
母さんが笑ってくれる
もっとたくさん話したくなる

【中学校の部】



豊後大野市立三重中学校
3年 安藤理子

母の横に立って
一緒に料理する私 将来は母の味で
家族を笑顔にしたい私

【一般の部】



豊後大野市立千歳中学校PTA
後藤 かわり

私が笑うと、娘も笑う
私が怒ると、娘も怒る
15年子育てして、やっと気がついた

三行詩コンクールは「たのしい子育て全国キャンペーン」を推進する文部科学省が、日本PTAと共催し募集、表彰を行っている。日頃から親子で話し合う大切さを社会全体に呼びかけることを目的としている。



児童会の子どもたちがあいさつ運動の表彰式をしてくれた。ネーミングがおもしろい。「気持ちがいいで賞」

挨拶は心を開き合うこと

が見えない。よく見ると、朝日神社に登る山の上から子どもたちが手を振っている。笑い声が小さく聞こえる。「あんなところからあいさつしたんだ」

毎朝、交通指導をしてくださる地域の方も、「子どもって、ほんと、かわいいなあ」と、にっこり笑顔になりました。あったかい心が開き合う朝のスタートです。

津久見市立聖徳小学校
校長 平川 英治

子どもたちのために できること

県教育長に 要望書提出

富永大輔県P連会長と、横松寛二県P連副会長らは、2月4日、野中信孝県教育長に、平成27年度における「中学校3年生学力診断テスト」の継続実施についての要望書を出した。

保護者心得六箇条

私たちの願いは、子どもたちが輝く笑顔で学校生活を送ること。それを具体的に進めるため、保護者自身が自ら振り返る事が大切だと考え、県P連では「保護者心得六箇条」を策定。小・中学校の新生保護者に配布している。母親部から「優しく暖かみのある色」との要望を受け、

保護者心得六箇条

- 一、あいさつの基本は、まず、大人が示そう。
 - 二、一人ひとりを尊重できるように、自分の人権意識を高める。
 - 三、権利ばかり主張せず、保護者としての義務を果たそう。
 - 四、学校や先生の批判を、子どもの前で話し合おう。
 - 五、学校に対する相談は、まず、担任の先生にしよう。
 - 六、PTA活動を通して、子育てを楽しよう。
- 大分県PTA連合会

各校に配布する用紙を水色からピンクに変更した。ぜひ、この六箇条をご家庭で活用していただきたい。

経験から学び 友情を深める

— 日本PTA国内研修事業 —

3月26日～29日 沖縄県・渡嘉敷島

渡嘉敷島の思い出

中津市立城北中学校
2年 山本 未来
僕がこの研修旅行で一番心に残ったのは、班活動のことです。二日目に、班の中の人の名前をお互いに覚えることで、楽しく班活動ができるようになった。



開放感あふれる笑顔

日田市立東部中学校
2年 小野 綾華
私がこの研修で心に残っていることは2つあって、一つめは、渡嘉敷のビーチで野生のカメを見つけたことです。渡嘉敷のビーチはとても青くて透明できれいでした。私は今までカメはもっと深いところにいると思っていたので、カメが5匹住みついていてと聞いたときは、まさか本当



沖縄の青い空の下で

※学年は3月末現在



コミュニケーションの可能性

～子どもと支え合うために～

理不尽な理由で命を失う子どもたちがいる。彼らの不幸の原因はどこにあったのか。



子どもたちは困難に直面した時、私たち大人にそれを悟られないように隠そうとする。親がその子に無関心であるとか、反対に過干渉であるとかに関わらず、成長の過程で自立に向けたプロセスとしてはごく当然のことだ。その中で私たちができる事は何か。ほんの少しでも、子どもたちに近づき、寄り添うことはできるだろうか。

乗り越えてゆく力

悲しい事件が起こると、誰の責任なのか？ 親は？ 学校は？ 地域は？ 行政は？ なぜ救えなかったのか？ と納得できる理由を探し、不安をぶつける相手を求める。そこに「自分ならどうしたか」の想像力を働かせるのは、あまりにも苦痛だ。「子どもたちからのサインを見逃さないで」「SOSに気付いて」と、多くの人はアドバイスする。しかし、そのサインは、日常という騒音にかき消されて聞こえない。

何より大切な我が子を守る術を私たちは考えなくてはならない。思い出してほしい。泣く事では要求を伝えられない我が子にどうすればいいかわからず、ただオロオロするばかりの自分を。その子はいつから大きな声をあげて泣かなくなったのか。1人でトイレに行き、自転車に乗り、学校へ通う。いつから「助けて」と要求しなくなったのか。

子どもたちは成長する。思春期になると、ホルモンバランスの乱れから、まるで混沌の中に放り出された感覚に陥る。私たちも、もがきながら乗り越えてきたのではなかったか。部活に打ち込む者、図書館に入り浸り書物の中に没頭する者、または…。

自分の居場所を探し、混沌からの出口を見つけるために、時に孤独を感じながら人とのつながりを求めた。乗り越えて来られたのは、側に居てくれた人のおかげだ。

子どもは社会性を身につけ親から離れていく。成長し独り立ちする。友だちとのつながりを築く事は子どもたちにとって、何より重要だ。そこにも、いじめや犯罪行為、悪意の大人が入り込んで来たら？ その時こそ、私たちはそのか細い声で発せられるサインに気付かなくてはならない。

保護者の方へ

- この本は、子供たちが人として心豊かに生きていくことができるようになることを願って、作成したものです。
- 学校では、道徳の時間やその他の学習活動を通して活用します。
- 御家庭でも、この本を開いて、一緒に考えたり話し合ったりして、子供たちの豊かな心の成長に役立ててくださいますようお願いいたします。

右は文部科学省発行の「私たちの道徳」裏表紙裏に掲載されている一文です。

保護者に向けてのメッセージにお気付きでしょうか。

■三つ目に「御家庭でも、この本を開いて、一緒に考えたり話し合ったりして、子供たちの豊かな心の成長に役立ててくださいますようお願いいたします」と書かれています。

「あなたが大切」

小学5年男子

「私たちの道徳」に「これが今の私」というページがある。好きな遊びや食べ物、得意なことなどを書き込むのだが「自分の「いいな」と思っている所」という設問に、「あるわけねーだろ」と書かれていた。同時に「一番大切なもの」には「家ぞく・友だち」それを見た母親は「Tくんのいい所を、口に出して伝えなくてはどう思った」と言う。家族や友人を大切に思うのと同じように、自分のことも大切に思ってくれるように。

家庭での「コミュニケーション」私たちの道徳から

将来の夢は

中学3年女子

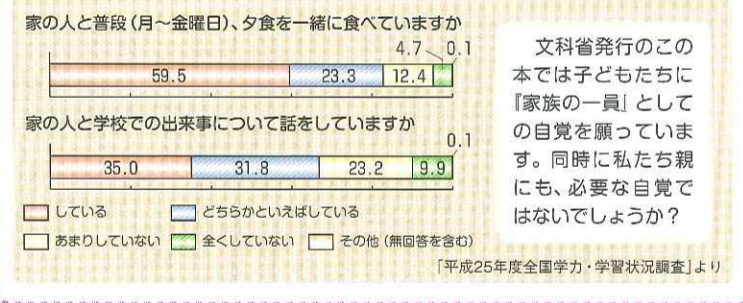
「先生と面談して、娘の将来の夢が自衛官だと初めて知った」と母親。子どもが反抗期に入り、会話の時間は減った。夕食の時間に帰っていないこともしばしば。いつ自衛官なんて夢を持ったのだらうと思惑が。PTA活動や地域の行事にも積極的な母親の姿を見るにつけ、あのお母さんの娘さんなら、きっと人の役に立ちたいと願ってのことだろうと周囲は納得しきり。

距離感の重要性

「親」という字は、木の上に立って見る。と書く、とはよく言われることだが。その心は、目は届くが手は届かない距離だとか。いち早く気づけるように高台から見守り、子ども自身がどうするか、成り行きに目を配り、どうしようもないと思えば側に行き手助けする。そんな距離感。この高台にあたるものはなにか。一つの方法としてコミュニケーションがある。些細な変化を見逃さないためには、注意深く見守る以外にない。

見つめる目と目

コミュニケーションは大切だとわかってはいるが、今朝、何人と挨拶を交わしただろうか。子どもの手本になっているか。コミュニケーション力を発揮し、その姿を子どもに見せるチャンスがあったか。



親のじろ

PTA活動の中で、たくさんの方の人生の先輩方のお話を聞かせていただけるとは、大きな学びであり収穫であります。その数あるお話の中でとても印象に残っているのが、長女が幼稚園に入ったばかりの頃に出会った元幼稚園の先生と話をしていた方のお話です。

「いつも同じ」という安心

それは「お母さんは朝明るい色の服を着るようになってください」というものでした。母親は家庭の太陽であり、その太陽が明るく輝いていてこそ子どもは「今日もがんばるぞ」という気持ちになれるという内容だったと思えます。たしかに朝の家の雰囲気、家族の表情が子どもを一日の気分を大きく左右します。

岩田 英子

PTAの活動はコミュニケーションを実践する場。担任の名前が言えない。なんてことはまさか無いと思うが、活動に消極的な人もいます。しかし考えてほしい。手の届かない距離にいる子どもを見守る私たちは、同時に、子どもからも見られている事を。だからこそ、子どもたちは、不安を親に打ちあけず、隠そうとするのではないのか。私たちがするのと同様に、子どもたちは、親に心配をかけまいとふるまうのではないのか。だからこそ、私たち大人は、子どもにもアピールする必要がある。「大丈夫。何でも言って」と。言葉でなく、信頼に足る大人の姿を、子どもたちに見せ続ける必要がある。PTAの活動は子どもたちにその姿を見せるチャンスの一つだ。

授業参観に行く。子どもが何を学習しているかを知る。機会があれば、会話のきっかけに使える。話さなくても、自分に興味を持ってもらっていると感じる事で、子どもは安心を得る。子どもの側に寄り添い、言葉を発してくれるのを待つのは辛いかもしれないが、それは必要な時間だろう。大切な子どもの命を守るために、私たちは連携を深めていかなくてはならないと思う。

授業参観に行く。子どもが何を学習しているかを知る。機会があれば、会話のきっかけに使える。話さなくても、自分に興味を持ってもらっていると感じる事で、子どもは安心を得る。子どもの側に寄り添い、言葉を発してくれるのを待つのは辛いかもしれないが、それは必要な時間だろう。大切な子どもの命を守るために、私たちは連携を深めていかなくてはならないと思う。

『つながる』19校の心 ～みせよう親の姿、白杵の目のため～

白杵市PTA連合会

キリシタン大名・大友宗麟が築城した白杵城の城下町として栄え、石畳の道路や、国宝白杵石仏などが残る歴史と文化の町で、心豊かでたくましい「白杵っこ」を育ててい



ネットワーク 16 報 村 PTA

(16は県下郡市等P連の数)

玖珠郡PTA連合会は玖珠町・九重町の2町のPTA連合会で組織され、2町の教育委員会が存在するという特徴をもったPTA組織です。
 市町村の平成大合併前では、県内でもこの様な組織はたくさん存在した形でしたが、今では大変珍しい組織となりました。

玖珠郡PTA連合会では三年前まで、玖珠町研修大会、九重町振興大会と別々に大会を開催していましたが、今



グラウンドから見た玖珠美山高校と切株山

又、玖珠農業高等学校、森高等学校の統合に合わせ、高等学校の将来を地域全体、PTA連合会で考えていく特別委員会の設立により高校への

魅力ある 地域づくりのために
 玖珠郡PTA連合会 会長 吉光 巧一

を白杵市の保護者心得として、市内19の小中学校の連携を深めながら活動を行っています。

1. 朝ごはん、一家団らん会話をしよう！
2. 家庭では親が先生。学び合う心をもとう！
3. 読書する、その姿勢はまず親から！

「白杵っこ育ての3か条」

白杵市PTA連合会 会長 川野 雄一

子どもたちが生活しやすい環境を

玖珠郡PTA連合会

はPTA会員の意識向上と現在の問題点を共通理解・認識する為にも両町P連合同で振興大会を開催するようになり、合同で開催する事で相互の情報交換や団結力が強まってきました。
 そして、一昨年より別府市P連を取り組んでいる「命の封筒」を玖珠郡PTA連合会事業計画に取り入れ現在、取組に向けて計画・準備段階のところではあります。

この様に玖珠郡の子どもの家庭教育、学校教育、地域への協力も頂き、子どもたちの生活しやすい環境を整えられる様にPTA連合会として、頑張っているところで、今後も玖珠郡PTA連合会の会員一人一人と共に、子どもたちを見守っていかねばならないと思います。

今年度も多数のご加入をいただきありがとうございます

転入生の方・ご加入を忘れていた方

平成27年9月25日まで随時ご加入できます。保険料・保険期間が変わりますので、下記、フリーダイヤルまでお問合せください。

はぐく美保険サービス株式会社 大分市大字下郡 496-38 TEL 097-535-7051
 MS大分株式会社 大分市中春日町6番5号 TEL 097-578-6644

コール ハグクミ 0120-56-8993 (受付時間：月～金 9:00～17:00)

24時間365日事故受付サービス「三井住友海上事故受付センター」 0120-258-189

みんながながえる コーナー

反抗期 どう扱ったらいいの? ③6

「1.5の世界」に遊ぶ子ども

「人」は、「こ」と「つ」つまり、「人」と「人」が倒れないように支え合っている状態を表現した意味深長な文字。
 更に、聞いた話によると、はじめに引く「こ」が男で、次が女という説もあるとか。
 人は、人との相互性を通して交流性が生じ、互いに影響を受け合い、生長が期待される。とは言え、このような関係性の維持とその持続には相対的な決意と覚悟の裏打ちが欠かせないのではないかと感じる。「1.5の世界に住む子ども」と称される子どもたちが大勢いると、子どもの発達を研究している先生の指摘がある。
 「1」は、子ども本人。「0.5」は、「物」のこと。主に、ゲーム機。子どもがゲームに熱中している姿をイメージしたフレーズだ。
 リセットが好き勝手に出来るゲーム機は、「生身の人間・子ども」相手より苦勞しない。「物」との強固な関係性からは、全人性の獲得にはほど遠いものがあると思うが。
 今、「反抗期」の子どもの「1.5」の中の「0.5」は、「物」ではない。次々に湧き上がってくる「揺れ動く心」に折り合いをつけるには、ヒトから得られた心と入れ替えねばならない。やがて、「0.5」が、「1」になることを信じて、フィッツする「自分さがしの旅」。
 みんなで考えるコーナー室長 岩尾 淳一

☆今年度の「はぐく美」編集スタッフを紹介いたします。

丸山真里(編集長)
 加来 史 小原容子(新)
 近藤 薫 田中留理子(新)
 (顧問) 岩尾淳一

編集後記

▼長男が、進学に伴い家を出て生活を始めた。「一人部屋ができた」と喜んでみせる次男もどこか寂しげ。春は寂しさ希望が背中合わせ。
 ▼優しかったお姉ちゃんの反抗期つぶりにとまどう弟。大丈夫、嫌いになったんじやないよ。落ち着いた頃には、あなたの番かしら。(笑)
 ▼陽光に照らされ、多くの人で賑わうGW中の宇佐神宮本殿。比べて奥宮は人も疎な霊地だ。その分、多くのパワーを貰えた気がする。お薦めです。
 ▼九州大会に出場した娘の部活。子どもたちの頑張りに、緊張と興奮の2日間だった。多くの応援に感謝し、最後の大会に向け、さらに精進!!
 ▼病床から眺めた春の青空。この時間は果たして災難なのか。「禍福門なし唯人の招く所」。現状を受け入れ、物言を切り替える余裕を持ちたい。

1面コラム欄は引き続き「研北寸心」です

筆者紹介
 氏名 牧 泰正(泰濤)
 ○元大分市立南大分小学校校長
 ○NPO法人・県書連顧問理事
 ○県美協名誉会員

県P情報
 ▼6月5日(金) 第67回定期総会
 ▼6月19日(金) 幹部研修会

【訂正】
 2月号の「親ごころ」でお名前間違いがありました。お詫びして訂正致します。
 【正】 高橋義孝